

権藤成卿 せいけい 典制學者、農本主義者、漢詩人。慶應四年（二月）二十  
 一日筑後國生まれ、昭和十一年七月九日没（八六—九三七）。本名善太郎、  
 善と修す、字成卿。號閑子、閑之子、閑と道人。少時より自學自習、  
 漢學、制度學を究。青年時代、朝鮮、支那、ロシアを巡歴。のち上  
 京して、習俗の自然による皇民自治主義のようになり、皇民自治主義（大  
 正八年刊）等々著はす。大正九年自治學會を創設、井上白石、長野朗  
 等々會員として農村自治論の先導的役割を演ず。國士館大學、金雞學  
 院講師となり、大川周明、高田素之、北一輝、橋本三郎等と親交。そ  
 の改革思想は多くの青年共鳴者を得、また血盟團や五・一五事件などに  
 影響を及ぼした。  
 善書は他に『自治民範』（昭和二年一月十五日平九社）、『日本農制  
 史談』（昭和六年十一月二十一日純眞社）、『農村自治論』（昭和七年七  
 年七月十日）『文藝春秋社』、『君民共治論』（昭和七年十一月十六日  
 文藝春秋社）、漢詩集『閑と子詩』全二冊（昭和八年十一月二十四日  
 権藤四郎介編輯）、『自治民政理』（昭和十一年四月十九日學藝社）、  
血盟團事件  
 可二・一五事件  
 可二・二八事件 其後の來るもの』（昭和十一年十月十五日平野書房）  
 等の他、翻譯『柳子新論』（昭和二年十月十八日洪文社）、編『西湖  
 四十字詩』（飯塚西湖著、昭和五  
 年七月十日松本多賀司刊）がある。

